

北西太平洋地域海行動計画推進費（環日本海海洋環境ウォッチシステム）  
平成30年度予算案29百万円（平成29年度予算額29百万円）

環境省水・大気環境局  
水環境課海洋環境室  
03-5521-9025

北西太平洋地域海行動計画推進費

事業の目的

人工衛星でとらえた海洋環境データを受信・解析し、NOWPAP関係国を含む国内外に発信する。事業期間(平成14年～)

- リアルタイム又は準リアルタイムによる海洋観測データ(クロロフィルa濃度等)の取得
- 衛星データを中心とした海洋観測データの保存・管理及び配布
- 観測データからの海洋環境情報の抽出と分析
- 海洋環境に関わる事象の時系列的なモニタリングの実施

これらの情報の提供・発信

・NOWPAP関連機関、海洋関連研究機関・環日本海沿岸自治体、教育機関、一般市民等で活用

- 例) CEARACが2007年から進めているNOWPAP地域の富栄養化状況評価手順書作成の検討にあたって、クロロフィルa濃度データを使用。
- 例) 富山県の環境科学センターが公共用水域における水質データを解析する際の参考情報としてクロロフィルa濃度データを使用。

条件  
(対象者、対象行為、補助率等)

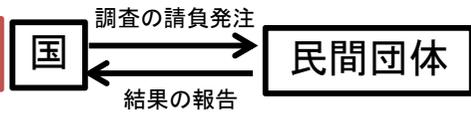
環境省

(公財)  
環日本海環境協力センター

**背景・目的**

- 瀬戸内海等の閉鎖性海域では、水質は全体として改善傾向である一方、赤潮や貧酸素水塊等の問題も依然発生。
- 生物多様性・生物生産性が確保された「豊かな海」の観点から、藻場・干潟の保全・再生、栄養塩類の適切な管理、気候変動による影響把握等の重要性が指摘されるなど、新たな課題への対応が求められている。
- 平成27年2月に『瀬戸内海環境保全基本計画』が閣議決定、同年10月に『瀬戸内海環境保全特別措置法の一部を改正する法律』が公布・施行され、新たな課題への対応を含め「豊かな海」を目指した施策を推進していくこととされた。

**事業スキーム**



**事業目的・概要等**

**事業概要**

1. 栄養塩類等の管理の在り方に係る検討
2. 気候変動による影響評価及び適応策の検討等
3. 藻場・干潟分布状況調査

**期待される効果**

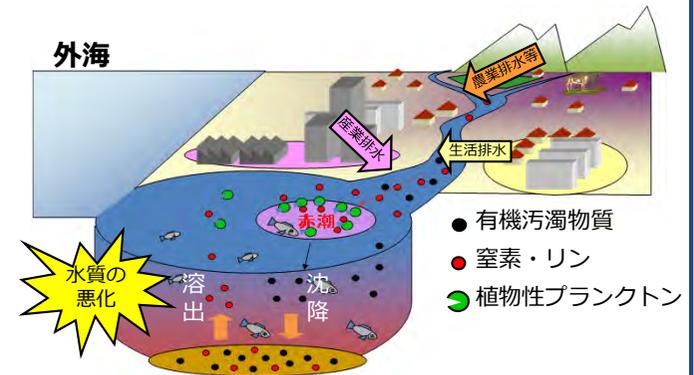
瀬戸内海等を対象として「豊かな海」の観点から重要な調査・検討等を行い、科学的な知見に基づく適切な海域管理方策をとりまとめるとともに、各海域における里海など「豊かな海」に向けた各種取組を促進する。

**新たな課題に対応した調査・検討が必要！**

**イメージ**

**平成27年度～**

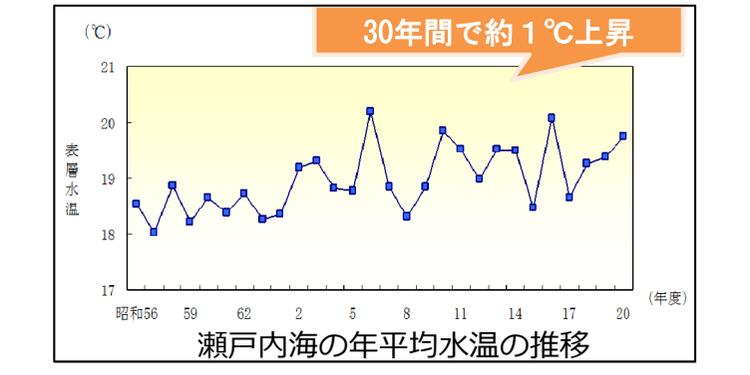
**1. 生物多様性・生物生産性の確保に係る検討**



- ・ 水環境と生物多様性・生物生産性の関係を分析・評価
- ・ **生物多様性・生物生産性の確保に係る検討**

**平成28年度～**

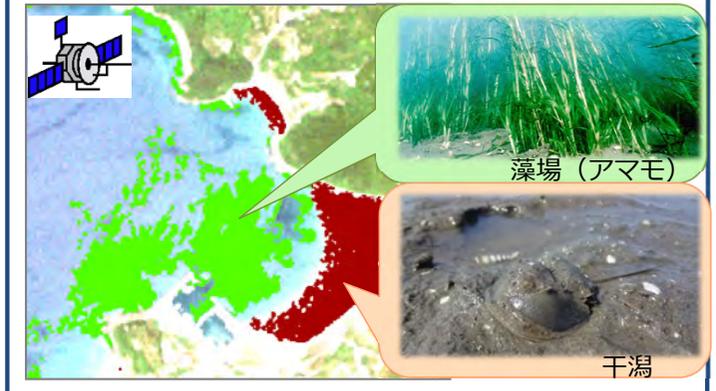
**2. 気候変動による影響把握及び適応策の検討等**



- ・ 水質（栄養塩類等）や生物多様性・生物生産性に対する**気候変動の影響評価**
- ・ 影響を踏まえた**適応策の検討**

**平成27年度～**

**3. 藻場・干潟分布状況調査等**



- ・ 水質浄化機能を有し、生物生息場として重要な**藻場・干潟の分布を、衛星画像を用いた解析手法により調査**

**「豊かな海」の観点から、海域ごとの実情に応じた海域管理の実現**